



平成30年3月22日  
独立行政法人国立科学博物館

## 科博 NEWS 展示 「日本固有のいきもの大集合」のご案内

—「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究」の成果から—

独立行政法人国立科学博物館(館長:林 良博)は、主要な動物・植物・菌類について「日本固有種目録」を作成し、公開しました。この目録には計 6285 種(亜種・変種を含む)の日本固有種が含まれており、日本に固有の生物の全体像が初めて把握されました。

本目録の公開に合わせて、科博 NEWS 展示を開催し、各生物群で明らかにされた日本固有生物を、標本や写真入りパネルを用いて紹介します。

【開催期間】 平成30年3月24日(土)～4月22日(日)

【開催場所】 国立科学博物館(東京・上野公園7-20)  
地球館1階オープンスペース

日本固有種目録(国立科学博物館webサイト内)

[https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot\\_japan/endemic\\_list/](https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/endemic_list/)

展示予定の標本: アマミノクロウサギ、メグロ、イシガメ、ホソバクリハラン、コウボウフデ他

本件の詳細については、以下にお問合せください。

### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

担当研究員: 海老原 淳(植物研究部 陸上植物研究グループ 研究主幹)

E-mail: [ebihara@kahaku.go.jp](mailto:ebihara@kahaku.go.jp)

研究活動広報担当: 稲葉 祐一

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8984 FAX: 029-853-8998

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

## <研究成果の詳細について>

### ■固有種の重要性

固有種の豊富さはしばしば生物多様性の高さの指標として用いられます。一方で、固有種にはごく狭い範囲に分布が限られるものも多く、それらは環境の変化によって絶滅の危機に瀕する可能性が高い種であるとも言えます。国立科学博物館では、世界の「生物多様性ホットスポット」の1地域に選ばれている日本において、国内の生物多様性の分布状況、歴史的変遷や成因を解明するためのプロジェクト研究<sup>\*1</sup>を平成20年度から実施してきました。

平成22年には、維管束植物(種子植物とシダ植物)の日本固有種2545種を特定し、それらの分布記録から、日本国内での「多様性ホットスポット」候補地を明らかにした<sup>\*2</sup>ところであるが、維管束植物以外の生物についても同様のデータが必要とされていました。

### ■今回新たに固有種が特定された生物

脊椎動物(哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類)、昆虫のうち鱗翅類(チョウとガの仲間)、陸産腹足類(巻貝の仲間)、コケ植物、淡水棲珪藻、海藻、菌類、地衣類について固有種の特定を進め、平成27年以降順次webサイトで公開してきました。この度、鱗翅類・陸産腹足類・淡水棲珪藻・海藻・地衣類の目録を新規公開したことによって、主な日本産生物の固有種6285種<sup>\*3</sup>が出揃いました。また、既に固有種目録が作成されていた維管束植物のうち、シダ植物については目録を大幅に更新しました。

	種数
哺乳類	51
鳥類	16
両生類・爬虫類	123
魚類	138
チョウ・ガ類	1720
陸・淡水産腹足類(巻貝)	746
種子植物	2404
シダ植物	125
コケ植物	155
海藻	269
淡水棲珪藻	113
菌類	71
地衣類	354
合計	6285

### <注釈>

<sup>\*1</sup> 平成20～24年度「生物多様性ホットスポットの特定と形成に関する研究」、平成25～29年度「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究」。

<sup>\*2</sup> 国立科学博物館プレスリリース(2010年3月24日)

<sup>\*3</sup> 生物の分類では、種をさらに細分して亜種や変種等の種内分類群が認められることがある。今回は、亜種と変種を固有種としてカウントし、植物の品種等はカウントから除いた。